

## 第5章 現在の和歌山と将来



# 復興への息吹と民主主義の広がり

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
明治・大正・昭和(戦前)時代	
昭和(戦後)・平成時代	

### 引きあげ港田辺

太平洋戦争が日本の敗戦で終わったので、海外に出ていた軍人や一般の人々が日本に引きあげてきました。全国18か所の港に引きあげ者を受け入れる地方引揚援護局が開かれ、630万の人々が帰国しました。田辺港もその一つです。



海外引揚者上陸記念碑 (田辺市)

田辺港への最初の引きあげは、1946(昭和21)年2月、台湾から約3,400人の人々でした。その後わずか4か月間に62隻の輸送船が入港し、約22万人の人々と1万1,469柱の遺骨が田辺港に上陸しました。おもに台湾にいた人々で、他に中国、マレーシアなど東南アジアの地域にいた人たちが着の身、着のままで帰ってきました。外地へ移住して、すでに2世、3世となって安定した生活を送っていた人たちは、すべてのものを現地へ残してきたのです。田辺市民は食べ物を用意して温かく迎えました。

軍人・軍属は退職金400円をもらったといいます。しかし、帰国してみれば、米1升200円、物価高でたちまち消えてしまい、その後の生活に苦しみました。

### 民主政治

第二次世界大戦後、**連合軍総司令部(GHQ)**はわが国に政治や思想、言論などの制限を一切廃止するよう指令しました。政治活動が自由になって、多くの政党が活動を再開しました。和歌山県にもその支部が次々にできました。



新憲法公布祝賀行列 (新宮市・昭和21年)

新しい選挙法による衆議院議員の選挙が、1946年4月に実施されました。女性の参政権が認められ、和歌山県下での当選者6人のうち、1人は女性議員でした。1947年5月、日本国憲法が施行され、地

方自治の制度も改められました。知事や市町村長は住民の直接選挙で選ばれるようになりました。女性の参政権ができて初めての投票で、女性は少しとまどいました。そこで、選挙前に投票の練習をしたり、学校で「婦人の投票の仕方」などの講習会を開くほどでした。

こうして、国民は中央や地方の政治に、平等・公平に参加し、国民・住民中心の政治ができるようになりました。

政治のほかに、産業や経済、教育、労働などあらゆる面で、民主主義の考えにもとづく改革がすすみました。

## 六三制教育

教育もすっかり変わりました。アメリカの教育制度を取り入れ、軍国主義の教育から民主主義教育になりました。1947年4月から、国民学校を小学校と改めました。新制中学校をつくり、9か年の義務教育として、男女共学になりました。その翌年に新制高校を設けました。続いて、昭和24年に新制大学を開学させました。

戦争中に焼けた校舎、荒れた学校の建て直しや新制中学校をつくることに各市町村は苦労しました。土地も校舎もないところから建築しなければならなかったからです。完成までに何年もかかりました。その間、分散教室、二部授業など不自由な教育をつづけました。空襲で焼けたため、野外で授業する学校（青空教室）もありました。

学科では、戦争中に重視された修身や地理、歴史をやめて、社会科や家庭科を新しく設け、自由研究を大切にしました。社会科中心の教育を実施する学校もありました。研究発表会を開く学校も多く、新教育の授業を押し進めました。教員も父母もともに新教育に期待をかけ、教育の復興に力を注ぎました。1948年に公選制の教育委員会やPTAも発足し、親と教師が手をたずさえて、子どもの教育を考えることになりました。

## 責善教育

新教育が発足した1947年、差別をなくす教育として 責善教育（後の同和教育）の実践を取り上げようとの主張がとなえられました。和歌山県教職員組合は、県全体の問題として取り上げ、それをすすめるよう県教育委員会に申し入れました。各地の学校でも、責善教育研究会を開いて指導するようになりました。

県教育委員会も新教育のなかで、重要な教育として取り上げ、1950年に「責善教育指導原則（試案）」をつくり、各学校を指導しました。1957年、県教育委員会は「責善教育指導方針（案）」を示し、一層の徹底を図りました。同和地区やいろいろな団体、県民あげての差別をなくす教育や運動に参加しました。

政府も部落解放、人権を守る政治に力を入れるようになりました。和歌山県の責善教育や解放運動が、こうして国を動かす大きな力の一つとなりました。1969年に法律をつくり、同和地区の生活改善や教育の重要性を国民的課題として位置づけました。県ではさらにすすめて、1973年に「和歌山県同和教育方針」を策定しました。

1948年、国連の総会で「世界人権宣言」が採択されました。この地球上からすべての差別や貧困、飢え、病気や戦争をなくそうと誓ったのです。1998（平成10）年は、ちょうどそれから50周年にあたりましたので、和歌山県でも人権問題についてのいろいろな行事を開きました。